

Rethink
フォーラム

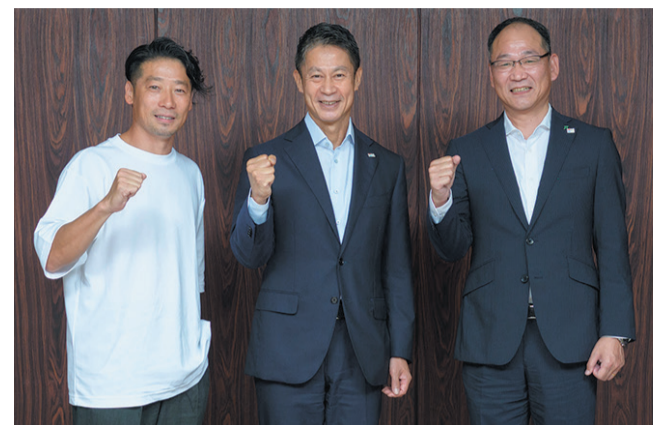
視点を換えれば、世の中は変わる。

「Rethinkフォーラム」とは、「心みたされる明日をともに創りあげていきたい」という全国各地の皆さまとRethink PROJECTの考えが一つになって開催する地域に根差したイベントです。



テーマ

Rethink広島～視点を換えて魅力ある街づくり、世界に誇れる広島県に～



「Rethink広島～視点を換えて魅力ある街づくり、世界に誇れる広島県に～」(企画・制作／中国新聞社、Rethink PROJECT協賛)が9月に開催されました。人口減少やグローバル化、新型コロナウイルス禍などを背景に社会や生活が大きく変わる中、「移住・定住」や「街づくり」をテーマに、広島県知事の湯崎英彦さん、建築設計事務所サポーズデザインオフィスの共同代表で建築家の谷尻誠さん、日本たばこ産業広島支社長の吉岡浩二さんが話し合いました。(モデレーターはメディア中国専務取締役の西原太さん)

出席者

モデレーター



湯崎英彦さん (広島県知事)
1965年広島市生まれ。通産省(現経済産業省)を経てアッカ・ネットワーク代表取締役副社長。2009年から現職。



谷尻誠さん (サポーズデザインオフィス代表、建築家、起業家)
1974年三次市生まれ。2000年建築設計事務所サポーズデザインオフィス設立。建築家の吉田愛氏と共同代表を務める。2023年9月中区に「猫屋町ビルディング」を開業。



吉岡浩二さん (日本たばこ産業広島支社長)
1968年瀬戸内市生まれ。92年日本たばこ産業入社。中国支社副社長を経て2022年から現職。※鼎談実施日9月27日時点

西原太さん (メディア中国専務取締役)
1962年生まれ。86年中国新聞社入社。防長本社代表を経て2022年メディア中国出向。3月から現職。

テーマ01 「移住・定住」 プラスアルファの居場所を

【西原】広島県の課題の一つは、県外への人口流出をどう減らすかです。転入者が転入者を上回る「転出超過」は2021年から2年連続、都道府県別で最多となっています。

【湯崎】大学進学や就職のタイミングで若い人が県外へ出るケースが見受けられます。県内には優秀な若者が多いにもかかわらず、「興味を持てる仕事や地元がない」といった声をよく聞きます。一方で、広島県は求人倍率が高く、働く場は豊富にあります。希望する仕事と就職先のマッチングに問題があるのではないのでしょうか。県では地元企業の特長や魅力をもっと詳しく知ってもらおうと、就活生向けに「就活サイトGo!ひろしま」などで情報発信に努めています。加えて、若者がチャレンジしたくなる新しい産業やベンチャー企業の育成も重要だと考えています。

【谷尻】働きやすさも大事ですね。若い人を無理に囲い込むことではなく、自由に伸び伸び働ける環境を整えてあげれば、逆に県外からの転入者が増えるかもしれません。副業とのダブルワークを推奨している会社など、とても魅力的だと思います。

【吉岡】岡山県出身の私はJ-Tに入社後、転勤も多く経験し、いろいろな地域で生活してきました。中でも広島は自然や歴史、文化、住環境の点でも素晴らしいと感じています。ただ、県外出身の若手からは「職場以外で人と触れ合えるコミュニティが少ない」との指摘も受けています。家と職場の往復で完結し、終業後や休日に趣味などで交流できる場所がありません。会社や自宅以外の居場所がプラスアルファで増えていけば、広島に住む魅力もアップしていくと思います。

【湯崎】移住者を受け入れる環境づくりも欠かせません。県では、広島移住をサポートするウェブサイト「H-I R O B I R O(ひろびろ)」による発信をはじめ、市町と連携して移住フェアを開催したり、「ひろしま暮らしサポートセンター」(東京)で個別相談を受け付けたりするなど、情報提供からマッチング、住まい相談などの受け皿づくりまで一体的に展開し、移住・定住を促進しています。その結果、15年度に109世帯だった移住者は22年度には596世帯に増えています。

【西原】谷尻さんは建築家として広島と東京の2拠点で活動しています。設計の仕事に携わる上で何を大切にしていますか。

【谷尻】僕は自然豊かな三次市に生まれ、野山を駆け巡って育ちました。エアコンもない古い日本家屋に住み、薪を割って五右衛門風呂を沸かすのが日課でした。不便な住まいでしたが、そこで暮らした経験が僕の設計の土台になっています。例えば、エアコンの効いた住まいは快適ですが、窓を開け閉めする機会は減ります。でも、窓を開けて風が通れば、自然の心地よさを感じることが出来ます。風通しの良い住まいをデザインすれば、自然の風や光をいっぱい浴びて開放的に暮らせ、冷房費も節約できます。世の中はどんどん便利になっていますが、少しくらい不便でも、自然を身近に感じられる環境の方が自分らしく、充実した時間が過ごせると考えています。だから僕は広島に生活や活動のベースを置き、東京へは「出稼ぎ」に行く感覚で仕事をしています。今は地方にいても、都会に負けないビジネスができる時代ですから。

テーマ02 「街づくり」 みんながコンシエルジュに

【西原】広島は現在、J-R広島駅周辺の再開発やサッカースタジアムの建設が着々と進んでいます。魅力ある街づくりのためにどんな取り組みが必要でしょうか。

【湯崎】広島は高度成長期に形作られたまちが半世紀以上が過ぎた現在、更新期を迎えています。魅力をさらにアップするには、街ごとに特色を打ち出すエリアマネジメントが必要です。例えば紙屋町には大きな商業施設が集積する一方、袋町には小さくても多様な個性な商店が並んでいます。街ごとにこうした性格付けをし、そのエリアに行けば、自分の価値観や趣味と合う人たちに会えるような仕掛けを盛り込めば、新たな活気が生まれるのではないのでしょうか。

【谷尻】移住や観光などで広島にやって来た人に出会ったら、地元の人たちは各自のお薦めの場所を紹介しようという「こひいきルール」を作ってはいかがでしょうか。「あの街に行けば、こんないいお店があるよ」「あそこに行ったら、こんなことができるよ」と、みんなでお薦めを紹介し合えば、点と点を線でつなぐように街歩きを楽しめ、にぎわいが面のように広がるのではないのでしょうか。

【吉岡】それはいいアイデアですね。街ごとに特色が生まれ、価値観や趣味が近い人が集まりやすくなります。プラスアルファのコミュニティに出会える可能性もぐっと高まりそうですね。

【谷尻】広島に住むみんなが「街のコンシエルジュ」になってお薦めし合えば、いろいろな場所でにぎわいが生まれます。一人一人がお薦めの場所をスマホの地図に記す「ご案内マップ」も作るのかなと思います。

【湯崎】県民10万人が「案内マップ」を作るだけでも、分厚いガイドブックになりますね。人工知能(AI)で分析して属性をつないだら、その人の嗜好に合うショッピングやグルメのスポットを見つけやすくなるかもしれません。ただ、広島は都心部がオフィスビルが集まり、土日はシャッターを下ろすビルが多いので、休日は閑散としがちです。でも1階にカフェやレストランなどがあれば、人が集まりやすくなるはずですね。訪れた人を気持ちよく迎え入れる「ウエルカムな街づくり」も大切だと思います。

【谷尻】昔はお風呂がなくても銭湯に通えたり、冷蔵庫がなくても近所に八百屋さんやお肉屋さんがあったりするなど、街が家の役割を果たしていました。今は家の中で生活のほとんどが完結してしまう分、街との結びつきが薄くなっています。住む人や訪れる人が「使いこなせる」街であつたらいいと思います。



テーマ03 「今後の展望」 新たな視点でにぎわい創出

【西原】広島をもっと元気にするために、皆さんはそれぞれの立場でどんなことに取り組みますか。今後の展望もお願います。

【吉岡】当社は地域の方々と一緒に広島を盛り上げる活動に力を入れています。その一つが、市民参加型の清掃活動「ひろえび」が好きな運動(ひろえび)です。広島市南区にある当支社周辺で2週間に1度、清掃活動を続けています。ほか、6月に開催された「2023ひろしまフューチャーズ(TIFF)」では約2千人の方々に清掃活動へ参加していただきました。こみを拾うという体験を通じ、地域を大切にしたいという意識を育てるのが狙いです。

【湯崎】県では「広島に生まれ、育ち、働き、働いて良かった」から考える広島の実現をビジョンに掲げていますが、特に広島市都心では広島市と共にまちづくりの大きな方向性を示す「ひろしま都心活性化プラン」を策定した新たな街づくりを進めています。21年にはこのプランの実現を共に目指して民間企業等を中心に広島都心会議が設立され、エリアマネジメント団体の活動支援等を行っています。国内外から多様な人々が広島を訪れていますが、特に海外からの観光客は、平和公園や宮島を見てそのまま他県へ向かうケースが少なくありません。こうした人々を街にフレンド・インさせるためにも、これまでの視点も変えつつハードとソフト両面から工夫しながら新たな街づくりを進めていきたいと考えています。

【谷尻】都心の活性化という点では、25年に開業予定の新広島駅ビルの広場の設計を監修しています。特別な用事がなくても自然に人が集まってくる公園のような空間にしたいと構想を練り、市中心的な川に見られる船着き場の雁木(がなぎ)を現代風に再現したテラスなどをデザインしました。「古い新しい」が僕の建築コンセプトの一つで、最近では中区猫屋町で築約50年の5階建てビルを丸ごとリノベーションし、飲食店やイベント空間、サウナなどが入る商業施設にしました。既存の建物も新たな視点で作直せば、新たなにぎわい創出につながると考えています。

【吉岡】それこそ、まさに「Rethink」ですね。当社ではスポーツの振興も地域の活性化につながるの観点から、J-Tサンダーズ広島も運営にも注力しています。新たな視野を持ち、事業分野を超えてさまざまな活動に携わることで、地域の一員としてこれからは広島市の街や暮らしを応援していきます。

【西原】視点を換えれば、広島はもっと元気になる。私たち一人一人が柔軟な発想で街づくりを考えることが大切だと学びました。ありがとうございました。

